



# ふくしま浜街道・桜プロジェクト

～ 30年後の故郷に贈る～

我々は前に進みます。復興へ向う福島県浜通りの象徴として子供たちに明るい未来を残してあげるために。そして被災地と全国の皆様との「絆」を後世へ繋ぎ、世界遺産になるような桜の街道を目指して。30年後、桜が咲き誇った福島浜街道に子供たちの笑顔が溢れていることを願って。

令和7年12月23日

NPO法人ハッピーロードネット

代表 西本 由美子

# NPO法人ハッピーロードネットのご紹介

## ◇活動の目的◇

- ①「まち」「みち」「地域づくり」に関するコーディネート
- ②人的ネットワークづくり
- ③地域の未来を担う人材育成



楽しく住みやすい地域社会の実現

## ◇主な活動◇

ハイスクールサミット  
↓  
防災サミット

ベラルーシ友好派遣団  
↓  
ハイスクールアカデ  
ミー

みんなでやっぺ!!  
きれいな6国

ふくしま浜街道  
桜プロジェクト



- 【2000年(H12年)】 交通安全母の会から「地域づくり団体」を結成、活動を開始】
- 【2007年(H19年)】 風景街道「ふくしま浜街道ハッピーロード」登録】
- 【2008年(H20年)】 「NPO法人 ハッピーロードネット」設立】
- 【2011年3月11日(H23年)】 東日本大震災
- 【2013年(H25年)】 ふくしま浜街道・桜プロジェクト 第1回ボランティア植樹開催

## 子供たちとの約束・・・

震災前、この街道を全国に誇れるものにしようと、地元の子供たちと立てた

「桜の街道」を創る計画。もう「夢」は叶わないと諦めかけていた時、私達を動かしたのは子供たちからのメールでした。

「皆んなとの約束を果そう」と奮起！地元の青年会議所と連携し、植樹活動を行っていく決意をしました。

# オーナー基金・クラウドファンディングの活用

ふくしま浜街道・桜プロジェクト

## オーナー基金募集

全国から桜の木オーナーを募集し、基金化を図ります。

東日本大震災から1年9ヶ月が経過しました。今でもなお、被災地の先住民は避難生活の強い心で立ちまわっています。でも、復興の道は長い道のりです。被災者の生活が戻るまでには、復興への意思を再燃させたいです。復興へのシンボルとして、桜が咲き誇る浜通り、「桜並木」の浜街道を、地域住民と全国から集うボランティアの方達の手で作り上げていこうと思っています。元来、日本人にとって、「桜」は特別な意味を持っています。この桜並木の成長と共に、故郷と故郷を離れて生きる人達との絆、そして全国と被災地との絆を繋ぐことで、この記憶と意思を、後世に伝え続けていこうと思います。皆さんの、暖かなご支援を求めています。

30年後の故郷に贈る

桜プロジェクトで寄付をいただいたオーナーのメッセージプレートを掲示



Readyfor

クラウドファンディング挑戦中!

ふくしま浜街道163キロに2万本の桜を!  
~避難した住民の方が帰って来たときに満開の桜で迎えられるように~

目標金額 500万円 開始日 2018.2/12~4/13

東日本大震災で被害を受けた福島県浜通りは、今も放射能を始めとする問題があります  
それでも、復興のため、この地に帰る子どものために活動を続けます

震災前、地域づくり活動の一貫として、高校生が事業を考えるサミットを行っていた中で企画されたのが、日本一の桜街道を創る「桜プロジェクト」でした。

しかし、その直後に東日本大震災が起こり立案者の高校生は亡くなってしまいました。

津波や原発事故の影響で避難している、福島の住民が、いつか故郷に帰って来た時に、満開の桜街道で迎えられるように。

そして震災を風化させないためにも、クラウドファンディングに挑戦します!

応援、どうぞよろしくお願いいたします。



# ふくしま浜街道・桜プロジェクト



東日本大震災により福島県浜通りは甚大な被害を受けました。  
福島県浜通りの元気を取り戻すため「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」を立ち上げ県内外のボランティア等による桜の植樹活動を行いました。2013年1月(H25年)「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」第1回ボランティア植樹を開始。

2013年10月3日に行われた 植樹の様子





# 浜街道さくらウォーク



2013年1月(H25年)に始動した「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」、国道6号沿いの桜も大きく育ちました。震災10年目の2021年4月(R3年)に、初の試みとして、桜を楽しむウォーキングと清掃活動を融合させ、青空の下で心地よい汗を流しました。2023年(R5年)までの3回実施。



# 浜街道さくらウォーク

- ・ウォーキングと清掃活動で汗を流した後は軽食と抽選会。
- ・子供たちによる司会運営と子供たちが作ったお菓子の配付。
- ・協力して下さった団体からの軽食提供や沿線自治体提供の景品抽選会。

## 軽食



## 抽選会



# ❀ 福島浜街道・桜プロジェクト10周年記念式典 「10年間の感謝と20年後に向けた希望」❀

令和5年1月で10周年を迎え、10周年記念式典は、中高生、大学生が作った「桜プロジェクト」のPR動画8点を通して、「10年間の感謝と20年後に向けた希望」を発信しました。10周年記念植樹は地元の中高生、大学生や企業、自治体などが参加し、植樹しました。

## 10周年記念式典

会場の様子



表彰式



## 10周年記念植樹



植樹状況

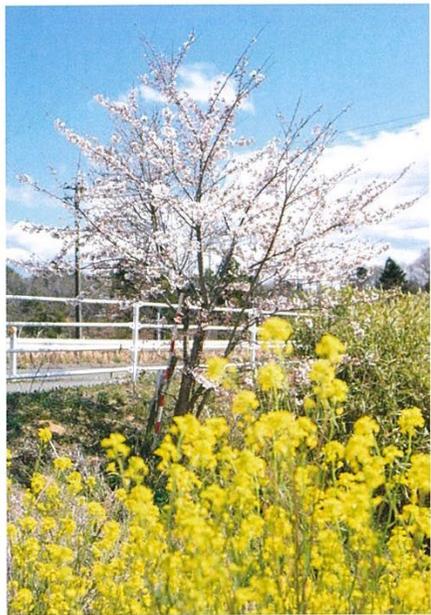


# 桜プロジェクトPR動画1 福島大学作成



# 桜プロジェクトPR動画2 原町高校作成





ふるさとはどうなっているのでしょうか。  
きっと明るく、豊かなまちに  
なっていると良いですね。

新地高校 2年 藤田 遥香



家族と福島のために頑張ろう。  
ここに植えられた桜は  
あなたたちの新しい家族です。  
共に未来を歩んでいこう。

新地高校 2年 寺島 裕貴



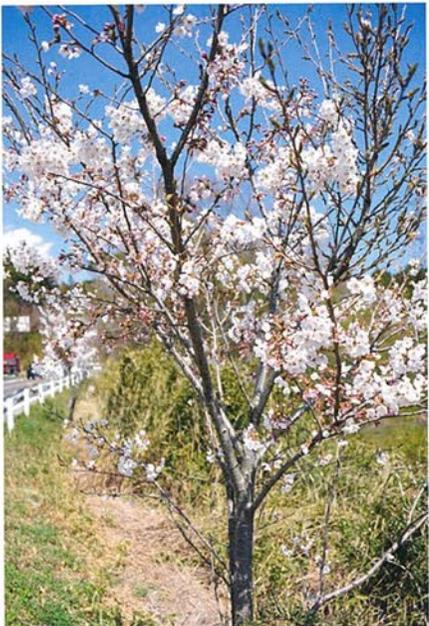
変わってしまった故郷を見て  
悲しくなるが、新しい気持ちで  
また自分の故郷を愛し続けられる  
人間になる。

ふたば未来学園高校 2年 菅野 光桜



故郷の桜が咲き誇っている下で、  
故郷から世界への架け橋になっ  
ていたい。

ふたば未来学園高校 3年 佐藤 宇政



思い出がいっぱいの町、  
突然見ることができなくなった町、  
30年後、私のところに戻ってきて  
下さい。どこにも行かないで

大熊中 1年 木幡 香澄



30年後の私に送ります。  
今の私は福島市にいます。  
でもやっぱり故郷は浪江です。  
夢を持って、生きて下さい。

浪江高校 2年 植野 美咲



30年後、私は警戒区域の地に  
立っているでしょうか？  
この、一本の桜の木は皆とともに、  
強く生きていますか？

大熊中 1年 鈴木 未奈美



夢・希望・喜びを抱え私は帰る。  
私達の大切な故郷へと。  
いつか大好きなああの町へ戻って  
いることを願って…

浪江高校 1年 宮田 美樹



## SAKURA STORY

The unbroken promise of an ever returning spring



A collection of messages from evacuated students to their future selves and hometowns in 30 years



This booklet was translated by members of the Our Fukushima Project, a student-led initiative to promote Fukushima to the world through the power of storytelling. The Our Fukushima Project consists of both international and Japanese students studying at Fukushima University. Please follow us on our social media pages to learn more about our initiatives!

**William DY McMichael** (Canada) Associate Professor, Fukushima University International Center



**Ayuna Miura**  
(Japan)

I appreciate being involved with such a great project!



**Dennis Rosinski**  
(Germany)

We all lose things - our pasts, our friends, our minds - but we keep going. Keep fixing ourselves when we break, just to be broken again. We may never be perfect... we are human.



**Dominik Naumann**  
(Germany)

I am honored that I had the chance to contribute to such an amazing and heartwarming project.



**Fei Ling Hong**  
(China)

I will continue to translate the Sakura Project into Chinese so its known by more people in more countries.



**Funa Tsushima**  
(Japan)

I was able to have a precious experience. Appreciate it.



**Futoshi Iizuka**  
(Japan)

I'm glad I had the opportunity to deepen my knowledge of the dynamics of life.



**Gitta Jakab**  
(Hungary)

I hope by doing this project and translating the messages it will help people understand the situation better all over the world.



**Jasmin Butkovic**  
(Italy)

I hope that the translation will reach even more people from all over the world, who will cherish these heartfelt stories as much as we did.



**Kento Kokubun**  
(Japan)

This project has made me realize that the honest voices of children are essential to keep the memory of the disaster from fading away.



**Lea Römer**  
(Germany)

I hope for every wish made on the Sakura trees to come true.



**Marija Blagojević**  
(Serbia)

I hope the sakura will grow and flourish, supported by the love with which they were and are being planted.



**Pia Kos**  
(Slovenia)

I hope one day I get the chance to visit the happy road myself and read all the messages in person.



**Samuel Robert Short**  
(United Kingdom)

Translating the Sakura Stories has opened my eyes to the lives of some of those affected by the March 11th disaster.



**Shiguma Sugiura**  
(Japan)

We are so happy to be part of this spectacular project. All messages here are really beautiful.





まっすぐ  
未来へ。  
ふくしま最前線

子どもたちと2万本の  
桜街道を目指して。  
総延長163 km  
壮大な桜のプロジェクト。

「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」実行委員会  
実行委員長 西本 由美子さん



30年後の故郷に贈る



★ご清聴ありがとうございました。